

2016 年秋学期レポート  
日本財団聴覚障害者海外奨学金事業  
第 10 期生留学奨学生  
山本綾乃

Gallaudet University  
M.A. Deaf Education Special Program

○学習面

今学期は四つの講義を受講しました。それぞれの内容は以下の通りです。

**1, Children's Literature (児童文学)**

絵本を通して様々な世界観、価値観を分析していく講義でした。テーマは動物、植物、愛、LGBT、天気等、多種多様でした。

その中で私はろう者差別を選択し、調査・分析を行いました。このテーマに自分の経験を重ね、それに見合う絵本探しや評価、指導案作りに取り組みました。ギャロデット大学図書館にはろう難聴関係の絵本の蔵書数が非常に多く、知識の宝庫であると改めて実感しました。日本のろう学校や難聴学級、通常学校の図書館にも日本語訳したアメリカの絵本を設置する価値があると思いました。

教授は学生への期待や評価が高く、授業参加や発言など積極的に取り組むことに手応えを感じることができ、とても楽しい講義でした。

**2, Introduction to Special Education Law and the IEP Process**

(特別教育法と個別教育計画プロセスの紹介)

この講義では、まず特別教育法の種類や内容、歴史を学びました。次につながる個別教育計画の考え方は IDEA (The Individuals with Disabilities Education Act) という法律に基づいて実施されています。つまり、これを守らないと法律違反となってしまうほど、責任の重い計画書です。アメリカのろう学校は一年に最低一回その生徒の個別教育計画について話し合う必要があります。それを個別教育会議といい、担任の先生や保護者だけでなく、聴覚言語士、カウンセラー、作法療法士、医者など、子どもの実態に応じて様々な専門家が集います。実際に、複数の保護者から個別教育計画会議の体験談を聞いたり、個別教育計画書をもとに、話し合いの項目内容について確認していきました。これは私の修論テーマでもあるので、とても貴重な時間でした。

**3, Elementary School Teaching Methods in Mathematics**

(小学校算数科指導法)

現在メリーランドろう学校小学部に勤務されている教諭が、勤務終了後に大学で講義を開いてくださいました。大学教授の講義とは違い、現場の生の情報をたくさん聞くことができ新鮮でした。算数の授業に関わる教材や教具も数多く紹介してもらいました。大きな数の概念の理解として、紙コップを使ってぐるぐる回すという教材がとても印象的でした。学生自身も教材を考案し、実際に使いなが

らお互いに発表し合いました。最終課題は、ペアでボードゲーム(すごろく)を作りました。ダンボールをアレンジしたすごろくゲーム、同じ概念を組み合わせたパズルゲーム、そして体全体を使ったゲームなど学年に応じて様々なアイデアが発表されました。現在はインターネットに様々な教材・教具の情報があるため、それを活用しながらも自分なりにアレンジすることが必要だということも学びました。

#### 4, Capstone I: ASL/English Bilingual Early Childhood Education

##### (論文 I: ASL/英語 バイリンガル早期幼児教育)

修士論文プロジェクトは一年かけて行います。前半は、個別教育計画についての資料や論文を集め、自分なりの言葉でまとめてきました。いわゆる先行研究集めです。最終的な目標は、個別教育計画についてのガイドブックを作ることです。なぜこのテーマを選んだのかというと、アメリカの聾学校には個別教育計画だけでなく、会議があるのです。その会議には様々な専門家が集まり、子どもの実態把握やニーズを共有し、最適な支援方法について話し合います。親・教員の願いはなんでも保障するというものではなく、標準より能力が下回っていたり、遅れていたたりする場合、それを補うための支援として存在しています。これは法律で制定されているため、きちんと保証する必要があります。

多様性の児童生徒が増加している日本のろう学校や難聴学級にも必要であると感じています。日本にはそのような保障が未だないため、制度として今すぐ行うことは難しいと思いますが、これからの時代を見据えて、ガイドブックを作って配布したり、ワークショップを行ったりするなど、将来のろう教育のきっかけ作りができたらいいと思います。

##### ○生活面

院生になって二年目のギャロデット大学。振り返ってみると一年目は、中学時代からの夢だったギャロデット大学の門をくぐり、ハリーポッターの魔法学校に迷い込んだようなキャンパスに感動しました。人種多様な仲間との出会い、様々な行事、専門的な講義、教育実習など、感動感激の連続でとても濃い日々でした。二年目は良い意味で、心に余裕を持って課題に取り組むことができます。

放課後プログラムの活動は、秋学期開始と同時に始められるかと思っていたのですが、様々な手続きが必要であることが判明し、それらを全て解決するのに三ヶ月もかかりました。しかし、その間は知人のお子さんのベビーシッターという良い機会を頂くことができました。様々なろうの子どもたちとかかわる機会を得ることができ、嬉しく思います。次学期も自ら積極的に、学校や子どもたちと交流できる機会を持っていきたいと思います。

今学期は、アメリカ大統領選を肌で感じることができ貴重な体験となりました。アメリカ次期大統領にトランプ氏が当選。ヒラリー氏が当選されるだろうと思われていましたが、隠れトランプ氏支持者が多くいたことに驚きました。マイノリティな立場に置かれている学生やスタッフが集まるギャロデット大学では、トラ

ンプ氏の当選にあたり将来への不安を隠しきれない様子でした。今後、日本やアメリカの政治にさらなる関心を持って生活していきたいです。

とうとう卒業まであと半年となりました。三年間の留学生活の集大成となる学期にできるよう頑張ります。これからも暖かい目で見守って頂けると嬉しいです。よろしくお願い致します。